

会務月報

第500号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■第1回総務・財務委員会 議事概要

日時 令和6年10月22日(火) 14:10～16:10

場所 日事連会議室

出席者 委員長 石井繁紀

委員 大宮利一郎、近山富貴、石畝正樹、渥美充広、福山雅也、早田倫明

副会長 白井 勇

会長 上野浩也(特別出席)

事務局 居谷、脇山、前田、三浦、伊東、松谷、中村

1. 総務・財務委員会の分担事項及び令和6年度事業計画等について

事務局より、資料1-1及び参考2によって、総務・財務委員会の分担事項及び令和6年度事業計画等について次のとおり説明がなされた。

総務・財務委員会は常置委員会に位置付けられており、傘下には会員サービス検討WG、事務所登録電子化対応WG及び女性活躍推進WGの3つのWGがある。

今年度の7つの事業計画のうち、本日は中長期の財政検討と年次功労者表彰を除いた5つの項目について説明する。

(1) 建築士事務所登録手数料について

事務局より、資料1-2及び1-2参考によって、建築士事務所登録手数料について次のとおり説明がなされた。

県等の担当で構成された「建築士事務所登録手数料の考え方」に関する研究会において、都道府県が条例で手数料を定める際に参考とすることができる「建築士事務所登録手数料の考え方」を取りまとめ、国土交通省から各都道府県宛てに「建築士事務所登録手数料について(技術的助言)」が発出された。研究会では、申請1件当たりにより要する処理時間・物件費の目安を示すにあたり、指定事務所登録機関(単位会)にアンケートを実施した。

委員等より以下の発言があった。

- ・群馬会では、自民党の群馬県連に全国平均に近い手数料にしてほしいと要望し、3月の議会での条例変更の成立を目指して県と交渉している。
- ・日事連が単位会からの要請を受け、各単位会の財政運営改善の手立てとして建築士事務所登録手数料を引き上げる活動を行ってきた。これまでも各単位会の実態調査は行ってきたが、議員連盟のバックアップと国土交通省の協力により設置された「建築士事務所登録手数料の考え方」に関する研究会の委員は各ブロックから推薦された府県職員である。このようなフレームで進めたのは初めてである。

- ・事務所協会の加入率は15%ほどであるが、未加入である残りの85%もの事業所の手数料不足分も協会員が補填している状況である。委員には是非とも次回の委員会までに所属単位会の状況を確認してほしい。

(2) 単位会組織強化支援事業（執行状況）

事務局より、資料1-3によって、令和6年度単位会組織強化支援事業の執行状況について、次のとおり説明がなされた。

- ・事業に対する支援に申請する単位会数及び申請事業数は年々減少傾向にある。事業実施後の確定した支援金額は毎年1,000万円程度で、令和3～5年度の合計は3,100万円程度であった。
- ・会員増強奨励金（新規入会1正会員につき1万円）は例年40以上の単位会が該当しており、年々増加傾向にある。3年間の支援金額合計は1,135万円であった。会員数が純増だった単位会を対象とした会員増強奨励金は、3年間の支援金合計290万円であった。

委員等より以下の発言があった。

- ・単位会組織強化支援事業は毎年2,000万円を上限に5年間で1億円の計画であるが、これまで予算内に収まっている。事業への支援は、単位会の活性化や組織強化を目的としている。単位会にアンケートを実施したところ、単位会によっては運営状況が厳しく、会員増強の手立てに困っていることが分かったため、他団体の活動等を参考に事業への支援を開始した。会員増強奨励金は増強活動に充ててもらふ趣旨で実施している。令和7年度は最終年度であるが、本委員会で議論し、どのようにしていくか内容を詰めていきたい。
- ・評価できる事例や取り組みを是非紹介していただければ、単位会が事業を立案するときの参考になる。
- ・前期も委員を務め、支援事業の審査も行った。評価方法は委員によって様々であるが、折り合いの付け方や自分なりの線引きの基準を決めて事務的に審査を行った。
- ・基準を決めるという案もあるが、各委員の感覚で審査を行っても、不思議なことに良い事業には自然と点数が集まってくる。

(3) 全国大会（実施状況）について

事務局より資料1-4により、全国大会の実施状況について次のとおり説明がなされた。

- ・1年毎に開催地を東京と地方で交互に実施した時期があったが、令和元年より毎年地方開催に戻した。
- ・地方開催時の日事連負担金は1,600万円の時期が長かったが、令和5年度より1,200万円に変更した。

委員等より以下の発言があった。

- ・来年度は新潟大会であるが、新潟会の次の理事会承認後に実行委員会の活動を開始する。日事連には指導をお願いしたい。
- ・東京開催の場合は800名規模で、地方開催だとおよそ1,400名規模である。2年前から日事連負担金を減額したが、今後どうするか検討していきたい。

(4) 会員サービス検討WGについて

事務局より資料1-5により、会員サービス検討WGについて次のとおり説明がなされた。

- ・東京会及び大阪会の活動を参考に会員サービス検討項目についてまとめ、周知も目的の1つとしたアンケートを実施し、全国会長会議でWGについて報告した。

- ・日事連が「全国中小企業団体中央会」に入会し、単位会の会員がその団体保証制度を割安な保険料で利用できるようにした。

委員等より以下の発言があった。

- ・当WGでは日事連として会員向けサービスで実施すべきことを検討しており、建賠をはじめとした様々なコンテンツを充実させているが、上手く周知ができていない。特に建賠は日事連にも単位会にも事務手数料が入るので、周知を進めていきたい。

(5) 各種保険の加入状況について

事務局より資料1-6により、各種保険都道府県別加入状況について次のとおり説明がなされた。

建賠保険の周知については、開設者研修会で日事連サービスの担当者による説明時間を設けている。また、企業年金基金については、単位会宛てに周知文書を送付するだけでなく、制度説明動画を作成し公開している。

次回の委員会では基金の常務理事による制度説明を予定しているので、委員の皆様にもまずは内容を把握してほしい。

2. 令和7年度単位会組織強化支援事業について

事務局より、資料2-1及び2-2によって、令和7年度単位会組織強化支援事業について次のとおり説明がなされた。

- ・当事業は令和3年度に開始し5年間に渡り単位会の活性化及び組織強化に繋がる施策の支援を実施することとしており、令和7年度が最終年度となる。
- ・実施要領案は基本的に前年度のものを踏襲しつつ修正を加えている。今回は前期の委員会で協議した結果を踏まえ、繰り返し申請の4年目となる事業の取り扱いについては審査対象から除く趣旨を追加した。
- ・スケジュールは従来どおりとするが、最終年度であるため、単位会への事前告知を早めてはどうか。

委員等より以下の発言があった。

- ・毎年2,000万円、5年で1億円の事業で、次回が最終年度である。次回の委員会までに実施要領の内容を決定したい。
- ・申請スケジュールについて、1月に単位会への周知を行い2月末の応募締め切りというのは、単位会にとって時間的に余裕が無いのではないかと。また、もし採択一覧等があれば、応募事業を検討する際の参考になると思う。
- ・採択事業の上位10件を公表すれば、単位会の参考になるだろう。募集期間の変更は難しいが、周知だけは早めたい。活性化や組織強化に繋がるような事業の応募が増えればと思う。
- ・周知は毎年12月の全国会長会議では行っていることなので、わざわざ時期を早める必要はあるのか。
- ・最終年度なので少しでも早めに周知して単位会の検討期間を少しでも長くし、多くの応募に繋がればと思う。
- ・毎年行っている事業なので、従来のスケジュールでも単位会は対応できると思う。各委員が行う審査はボリュームがあるので、速やかに行えるよう頑張らないといけない。
- ・実施要領案にある、繰り返し申請4年目の事業は審査対象から除くというのはどうかと思う。前期の委員会で2回審査に参加したが、これまでの応募状況を見ると繰り返し申請が多いとは思っている。しかし、それは毎年単位会の目玉として行っている事業なので、これを後押しすることは単位会の活性化に繋がるのではないかと。

また、新規事業研究のために、他の単位会の取り組みをなるべく多く紹介してもらえればと思う。単位会によって規模が異なるので、好事例を少しだけ紹介されても参考にならないことがあるだろう。

→実施要領案の繰り返し申請4年目を対象としないというのは、前期最後の委員会で協議した結果を踏まえて、今回のたたき台に反映させた。今年度から新しい委員編成になったこともあるので、委員の皆様の新しい観点から判断していただきたい。

- ・新規事業は1年だけで効果が表れるのは難しく、何年か繰り返し実施することにより効果が分かるものだと思う。最終年度なので、より一層効果的な事業を企画するためには、5年間で実施された事業の紹介があればと思う。5年で支援事業が終わるので、事業を評価する場があればと思う。これまで各単位会で実施されてきた様々な事業に対し、どのように支援金が使われたのか、どういう効果が表れたのかといったものを出してほしいと思う。
- ・他の地域や単位会でも幅広く効果が期待できるものは、きっと支援事業が終了しても実施できるはずだ。支援金が無くても、事業として良い方向性のものについてまとめていきたい。
- ・単位会に対して、採択事業の実施によって会員が増えたのか、会の活性化につながったのか等の結果を確認し、効果を検証する必要がある。

協議の結果、次回委員会で実施要領等の内容を決定することとし、事前周知については検討を進めることとした。

また、実施結果の精査を行う必要があるため、事業を採択された単位会に対し自己評価等のフィードバックを依頼することとした。

最後に上野会長より以下の発言があった。

- ・総務・財務委員会の管轄は幅広いが、日事連の肝となる委員会であり、委員の皆様には是非とも知恵を絞って活発な議論を繰り広げてほしい。
- ・単位会組織強化支援事業は最後の1年であるが、効果が検証されていない。私の元には「今年は採択されなかった」「他の単位会の似たような事業は採択されたのに、どうしてうちは選ばれなかったのか」「バラマキではないか」といった意見が寄せられている。
- ・採択事業の一覧や、他の単位会の見本になるような事業を紹介してもらえれば、活性化に繋がるのではないかな。

次回日程 11月6日(水)

配布資料

資料1-1: 総務・財務委員会の分担事項及び令和6年度事業計画等について

資料1-2: 建築士事務所登録手数料について(技術的助言)、参考資料

資料1-3: 単位会組織強化支援事業(年度別執行状況)

資料1-4: 平成19-令和6年度 全国大会 収支決算比較

資料1-5: 会員サービス検討WGについて

資料1-6: 各種保険都道府県別加入状況

資料2-1: 令和7年度単位会組織強化支援 実施要領(案)

資料2-2: 令和7年度単位会組織強化支援事業スケジュール(案)

参考1: 総務・財務委員会名簿

参考2: 日事連機構

■第1回広報・渉外委員会 議事概要

日 時 令和6年10月23日(水) 14:45～16:35

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 鉄川裕崇

委 員 鉄川 大、千鳥義典、立道浩幸、由村知行、石原節夫、内田信介

担当副会長 樋上雅博

会 長 上野浩也(特別出席)

事務局 居谷、脇山、前田、三浦、井上

<配付資料>

資料1: 広報・渉外委員会の分担事項及び令和6年度事業計画等

資料2-1: 令和6年度の日事連建築賞の選考について

資料2-2: 令和7年度日事連建築賞募集要項について

資料2-別紙: 令和7年度日事連建築賞募集要項

資料3: パンフレットについて

資料3-参考: 入会促進チラシ/建築をつくるために

資料4: 共同要望運動の実施について

資料4-参考: 令和6年度共同要望書/説明用資料

資料5-1: 会誌の発行について

資料5-2: 令和6年度年間台割帳

資料5-3: 会誌『日事連』連載「単位会からの風」への寄稿について

資料6: 令和6年度上半期事業報告

参考: 令和6・7年度 広報・渉外委員会名簿/機構

特別出席された上野会長より、本委員会は日事連にとって重要であり、時代に合わせた会誌の在り方、地方が疲弊しないためのタイムリーな内容を盛り込んだ要望書及び活用しやすいパンフレットの作成等について協議をお願いしたいとの挨拶がなされた。

議 事

1. 広報・渉外委員会の分担事項及び令和6年度事業計画の確認について

事務局から広報・渉外委員会の分担事項及び令和6年度事業計画について説明がなされ、確認した[資料1]。

2. 日事連建築賞について

2-1. 令和6年度の選考について

令和6年度日事連建築賞の選考状況・結果について事務局から以下の報告がなされた [資料2-1]。

一般建築部門82点、小規模建築部門75点、合計157点の建築作品が単位会へ応募され、単位会での第1次審査を経て、29単位会から一般建築部門30点、小規模建築部門26点、合計56点の応募がなされた。

日事連建築賞選考委員会により、国土交通大臣賞1作品(一般建築部門)、日事連会長賞1作品(小規模建築部門)、優秀賞6作品(一般建築部門3作品、小規模建築部門3作品)、奨励賞10作品(一般建築部門5作品、小規模建築部門5作品)が選考され、常任理事会にて専決承認のうえ福井大会にて表彰式が行われた。本年度は福井会の企画で午前中に単独で優秀賞・奨励賞の表彰式が開催され、全国大会式典の中で国土交通大臣賞・日事連会長賞が表彰された。

2-2. 令和7年度募集要項等の検討について

令和7年度日事連建築賞募集要項について事務局から以下の説明がなされ協議した〔資料2-2〕。

- 1) 例年の必須変更項目：日付等
- 2) 選考委員：日事連関係の委員として丸川委員から樋上副会長に交代
- 3) 日事連建築賞の在り方

昨今狭い意味での作品賞にとらわれない作品の応募があり、今後の日事連建築賞の在り方について前期広報・渉外委員会でも協議してきたが結論は出なかったが、日事連建築賞選考委員会から7. 審査基準に『⑥ その他、地域や時代の要請に応える新たな視点等について配慮されていること』を追加する提案がなされた。

- 4) 2次審査における応募数について

日事連建築賞選考委員会にて、1次審査における倍率が高い単位会の救済措置について、以下の提案がなされた。

○会員数500以下の単位会について、いずれかの部門に10点以上の応募があった場合は当該部門の推薦枠を1点追加可能とする。

<意見>

- ・意欲的な応募者が多くいる小規模な単位会については、限定的に推薦枠を追加するのは賞や単位会の活性化にもなりよいのではないか。
- ・流れとしてはよいと思うが、例として挙げられている会員400人と700人の単位会で応募できる作品数が同じになるのは、大きい単位会からすると不満が出るかと思う。
- ・応募数を越えたものについてはテスト的な審査があり、それに受かった場合救済するのなら公平性が保たれてよいが、応募したものの勝ちになるのも疑問符が付くのではないか。
 - 第2次審査（日事連）に出してよい作品かどうかは各単位会で第1次審査を実施するため、そこで制限がかかるのではないか。
 - 単位会内ではなく、全国またはブロック単位で数をプールするオプションもあるのではないか。
 - ブロックでプールということになると手間がかかり煩雑になる。
 - 長崎会／北海道会では独自に建築賞を実施し、優秀な作品を選別して日事連建築賞に上げている。単位会内でそれなりに判断できるのではないか。
- ・各単位会で10点以上の作品が応募され、第2次審査に上がる数が増えると審査員の負担も増えるのではないか。
 - 〔参考2〕で実際の応募数を確認すると、1部門に10作品以上の応募がある単位会はあまりないのではないか。
- ・大胆な話をすると、全国に出して恥ずかしくない作品を単位会がきちんと選別すれば、応募数は制限をかけなくてもよい。会が活性化され、特に若い建築士の意欲が上がるのであればそれもよいと言える。

協議の結果、1) から3) に関しては異議なく原案のとおり了承された。また、4) に関しては様々な意見が出されたが、令和7年度は原案のとおりとし、次年度以降結果を確認し再度検討することとした。

その他、日事連建築賞選考委員会から第2次審査で選外となった作品について、第1次審査を通過したことは意義あることなので、応募者の活動の糧となるよう、また、今後応募を検討する事務所の参考となるよう、HPか会誌等で紹介してはどうかとの提案がなされていた。8月に開催した会誌編集専門委員会にて検討し、来年度から応募事務所の同意が得られた第2次審査選外作品を受賞作品の発表と同じ10月号で、見開き

2ページ、写真付きで掲載することとした。

3. パンフレットの作成について

事務局から前期広報・渉外委員会で対応・作成したパンフレットについて説明がなされた〔資料3、参考〕。

1) 入会促進チラシ

昨年日事連サービスが作成した入会促進チラシを単位会でも自由に利用できること及び単位会情報の追記等修正して利用することの許可を得て、そのデータの配布とともに、例として単位会情報を追記するパワーポイントのサンプルデータを作成し単位会に提供した。

2) 一般消費者向け 建築士事務所の仕事に関するパンフレット

現在の冊子パンフレットは在庫がある限り単位会の希望に応じて提供するが、住宅に限定せず一般建築も対象にした、イラストが多く見やすい電子版（PDF）パンフレットを作成し、本年9月に日事連HPに掲載、単位会にも活用を案内した。

<意見>

- ・一般消費者向けパンフレットなのでわかりやすくするため問題にはならないと思うが、厳密にいうと記述に気になる部分はある。（設計業務の適用除外、告示8号の中の確認申請費用等）
→電子版で柔軟に修正が可能であるため、他含めて修正が必要な箇所があれば意見をもらって検討していきたい。

鉄川委員長より、他の新たなパンフレットについても今後意見をもらい検討していきたい旨発言がなされた。

4. 共同要望運動の実施について

事務局から共同要望運動について説明がなされた〔資料4、参考〕。

例年日事連と単位会の行政に対する共同要望書を作成している。以前は年1回7月頃に配布していたが、平成30年度から単位会の希望で早期（4月～6月）と通常期（7月以降）で分けて配付していた。直近3年は早期希望がないため、令和7年より通常期のみとする。

また、例年4項目（①業務報酬基準の準拠と業務内容の明確化について、②入札方式に偏らない評価方式の採用と適正価格の設定について、③建築士事務所賠償責任保険への加入について、④建築CPD情報提供制度の実績活用について）を骨子とした要望書を作成していた。令和2年度よりレイアウトの変更を行い、骨子の4項目を正式な要望書として作成し行政に提出、必要に応じ説明用資料で詳細を記述する形に変更した。

本年度は、『⑤2000年基準前の新耐震基準で建てられた木造住宅を加えた耐震化助成制度の創設・拡充について』を追加した5項目の要望書とともに、都道府県知事には追加で「開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会」の受講実績の活用についての要望書を作成した。

事務局より、次回の委員会で来年度の共同要望書について協議するために、後日委員に追加、修正、削除すべき項目についてアンケートを送るため、必要に応じ単位会やブロック協議会での意見も聞き回答してもらいたいと依頼がなされた。

5. 会誌の発行について

1) 会誌の発行について

事務局から会誌の発行について以下の通り説明がなされた〔資料5-1〕。

会誌『日事連』は、令和3年7月号より会誌Web版の導入（単位会ごとにWeb版と印刷物を選択・毎年4月号で選択）、パスワード等で制限をかけられるHPで提供することとしている（会員専用HPがない場合または毎月のアップデートが難しい場合は日事連HPにて閲覧）。

印刷物選択： 27単位会 Web版選択： 20単位会（令和6年度10月現在）

会員専用HP： 22単位会 日事連HP： 11単位会

Web版の導入の経緯：会誌は、会員・単位会・日事連をつなぐネットワークとしての重要な役割を果たす一方、単位会より経費の軽減等に関し要望が挙げられていた。広報・渉外委員会では会誌の発行に係る経費を見直すため、a) 毎月発行・単位会の選択により発送回数の変更可、b) 毎月発行・単位会の選択によりWeb版と冊子を選択、b') 毎月発行・Web版のみ、c) 発行回数の変更等、いくつかのパターンごとに日事連及び単位会の収支の試算をするとともに、単位会にアンケートを行った。アンケートの結果、Web版を希望する単位会が27会、印刷物を希望する単位会が19会あり、会誌送料の削減により支出削減を強く希望する単位会と冊子印刷を強く希望する単位会に分かれた。ただし、Web版を選択した単位会も行政等へのPR用に印刷物と併用したいと回答した単位会も多く、選択制のWeb版での配信を開始するに至った。

[Web版メリット] 会誌送料・印刷費削減／ネット環境があればどこでも読める／所員の多い事務所で読みやすい／バックナンバー購読が簡易

[Web版デメリット] 読まれない可能性／行政等へのPRができなくなる／広告等の収入は減少

<意見>

上野会長：課題として会誌のWeb化推進を挙げているが、印刷物を作ること自体に反対しているわけではない。必要などころはあるだろうが、一方で一部会員から毎月一方的に送られてきて不要との意見もある。無料で送付してもらえらるからもらっておく単位会・会員もあるように思われる。本当に必要などころに届けるという意味で、今後確認をしていきながら有償化の選択肢も含めて検討してほしい。

- ・北海道会では支部でも会誌を作成しており、会として統合しようかという話もでている。必要な情報は自分で取りに行く世の中でもある。また、会員以外にも我々の活動を知ってもらうために会誌を公開すべきではないかという議論もある。
- ・東京会では『日事連』を本年からWeb化し、東京会の会誌も送料等の削減のため本年は合併号で年10冊に発行数を削減、来年からはWeb化する準備をしており、複数人の事務所は所員の閲覧も容易になる。行政へのPRについては印刷を検討している。その他会議の資料も事務局でコピーしていたが、今は当日配られるのは議事次第だけで、PCまたはタブレットを個人で持参してもらっている。当日忘れた参加者用にタブレットを数台購入し貸し出している。協会との繋がりなどに関してはあまり変わらないと思っている。
- ・静岡会でも年3回発行の会誌を既にWeb化している。特に苦情もないしアクセス数でそれなりに閲覧してもらっていることは確認しているが、今後閲覧数を上げる方法を模索している。行政や建築系の学校に冊子を配付していたが、QRコードを貼り付けた1枚の表紙紙またはPDFを配付し、全部見れる方式にしている。現在はどのようにWeb版を見てもらうかについて議論しているところである。
- ・一定数冊子が欲しい方はいると思うが、最近はカード会社も冊子配付は有料化している。進めていくうちに淘汰されるのではないか。
- ・会誌の発行数を減らすことで経費を節減してきているが、その分どう使うかは重要である。
→日事連の財政が赤字なのでなかなか難しい。
- ・長崎会は、離島が多くFAXさえない事務所もあるので状況は異なる。若い人は特に封筒で配送された印刷物は読まないという話も聞く。経費を抑えるため、Web化を進めていくのはよいのではないかと思う。

・香川会では今まで色々な案内をFAXで送付していたため、メールに切り替えるためのアンケートをしたところ十数%の事務局がFAXを希望した状況であった。会誌の発送時に通知・連絡事項も送っており、会員と協会の結びつきとなっているところがある。冊子が有償となった場合不要と判断されると思われる。

・協議にあたり会誌発行にかかる費用を知る必要がある。

→本年度収入予算としては会員外の会誌販売費、一部単位会には宛名データをもらい会員直送しているためその送料及び広告料として590万円程度、支出予算としては印刷製本・Web制作費に加え、原稿料、運搬費をいれて2,660万円となっている。実質的な印刷数としては昨今9,000部強で想定よりは少ないため決算としては少なくなる見込みである。

Web化がもっと進むと、広告料は不確定要素があり、購読料収入と合わせて減少し、印刷・製本費及び通信運搬費はかなり減額される。また、現在のWeb版は冊子そのままの電子書籍となっているが、今後Web版に特化した見やすいものにする場合はその部分の経費は上がると思われる。

・大阪会では会誌を非常に重視している。大阪会の会誌の内容も評判は良く、『日事連』と同梱して会員に送付している。Web版となるとなかなか見てもらえないのではないかと懸念はある。ただ、多角的に考えて有料化等含め議論はしていくべきとは思っている。

・原稿料は明確なのか。単位会の会誌では支払っていない場合もあり、ルールを明らかにしたうえで、例えば減額も検討できる。

→原稿料のルールとしては、会員は1頁6,000円としている。ただし執筆者が写真や画像2～3点を手配した場合なので、手配を編集サイドで行ったり写真が大きく文章が少ない場合等は減額している。

上野会長より、今年度中に決めなくてはいけないわけではない、加えて、会誌の一般公開についても一部限定等含めて検討してほしいとの発言がなされた。

鉄川委員長より、引き続き委員会で協議するため、各単位会、ブロックでの意見を聞いてきてほしいとの依頼がなされた。

2) 最近の会誌の発行状況について

事務局から最近の会誌の発行状況について以下の通り説明がなされた [資料5-2、資料5-3]。

先日11月号「建築士事務所のSNS活用術」が校了したところである。1月号、2月号は例年通り会員寄稿記事「新年の抱負」を掲載予定で、間もなく単位会に募集依頼するためぜひ協力してもらいたい。また、「単位会からの風」では身近な単位会の情報を掲載することにより会誌を読んでもらえるよう1号に4単位会ずつ連載している。本委員等が所属している単位会には資料のとおり、2月号京都会・長崎会、3月号北海道会・岡山会、4月号静岡会、7月号香川会、8月号東京会で考えており、所属単位会に協力をお願いしてほしい。

6. 令和6年度上半期事業報告

事務局から令和6年度上半期事業報告(案)の説明がなされ、異議なく原案のとおり了承された。[資料6]。

7. その他

次回委員会開催日：令和7年2月3日(月) 14:00～16:00

■第1回会誌編集専門委員会 議事概要

日時 令和6年10月1日(火) 14:00～15:50

場所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦

副委員長 鈴鹿美穂

委員 廣瀬正美、宇塚幸生、小泉 厚、齊藤滋史、福山雅也

広報・渉外委員長 鉄川裕崇

オブザーバー (株)ジェイクリエイト 城市奈那

会長 上野浩也 (特別出席)

事務局 居谷、三浦、井上

<配付資料>

資料1：令和6・7年度委員名簿

資料2：会誌編集専門委員会活動状況について

資料3：令和6年11月号台割

資料4-1：令和6年12月号台割

資料4-2：令和7年1月号台割

資料4-3：令和7年2月号台割

資料5-1：特集提案 各地の建築祭 (メモ)

資料5-2：特集提案 大正ロマンと昭和レトロ

資料6-1：会誌『日事連』連載一覧 (2024年9月時点)

資料6-2：これまでの『日事連』表紙

参考1：令和6年度 年間台割表

参考2：令和5年度 年間台割表

議事

1. 令和6・7年度委員の確認

事務局より、令和6・7年度委員について説明がなされた。(資料1)

2. 会誌編集専門委員会活動状況について

事務局より、会誌編集専門委員会の活動状況について説明がなされた。(資料2)

3. 直近の会誌(9・10月号)の掲載内容についての意見交換

会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<9月号>

◇特集 水辺からの都市再生

- ・どちらのインタビューも、海外事例を知ることができる非常に興味深いものだった。
- ・前橋の事例と編集後記の内容がリンクしており良かった。
- ・以下のインタビュー文が分かりづらいと感じた。

P4・・・世界の総水害件数の約4割をアジアが占め、そのリスクにさらされている人々のうち9割以上がアジアで暮らしていると報告されています。

- ・インタビュー内容は主に水辺の都市の紹介で、それ自体は面白く読んだが「水辺からの都市再生」というテーマからは乖離していると感じた。
- ・海外事例としてボストン湾等の地域も紹介されていると良かった。
- ・国内事例が前橋と大阪の2件だけだったが、もっと多くの事例を読んできたかった。

- ・対象となる「水辺」の規模を考慮すると、ページ配分（前橋3ページ、大阪1ページ）がアンバランスだったように思う。
- ・前橋の事例に構造断面図も掲載されていると分かりやすかった。
- ・大阪の事例で文責の記載が抜けていた。

<10月号>

◇令和6年度日事連建築賞

- ・木造建築の勢いを感じた。
- ・設計者の意図や理念が明瞭な作品が受賞するのは、非常に望ましいことである。
- ・P3は受賞発表記事のトビラとしての華やかさが欠けていた。目次のように作品写真を載せては。

◇単位会主催の建築賞・コンクール

- ・今回紹介されたような各単位会の建築賞が、若手が建築賞に応募するきっかけになってほしい。
- ・それぞれの審査員も記載されていると、より面白い紹介記事になるのでは。
- ・これから建築賞を創設したい単位会にとって、参考になる記事だった。

<全般>

- ・もっと誌面の文章量を減らし、文字を大きくしても良いのでは。減らした文章はWebで読む形式にして、興味のある人が記事中のQRコードから閲覧できるようにしてはどうか。→反対に、読みやすいので現状の編集方針を維持してほしいとの意見も出された。

4. 11月号の編集状況の報告

ジェイクリエイトおよび事務局より、11月号の編集状況について、台割案に基づき説明がなされた。（資料3）

◇特集 建築士事務所のウェブ活用

- ・前回提案時よりインタビューや事例の数を減らし、1件1件をより深く紹介することとした。
- ・「ウェブ活用の原則と適切なツール選び」について、architecturephoto.net・後藤連平氏のインタビューを掲載する。
- ・ウェブ発信を積極的に行っている建築士事務所（井川建築設計事務所、ALTS DESIGN OFFICE、西和人一級建築士事務所）のインタビューを掲載する。事務所ごとに発信目的が異なる（集客、趣味、建築士業務の認知度向上）ため、広い範囲の読者に参考にしてもらえると期待している。
- ・コラムでは、BIMwork社のYouTubeを通じた取り組みや、SNSの使い方を紹介する。

◇その他の主な記事等

- ・「令和6年度日事連建築賞作品紹介」は、国土交通大臣賞を受賞した徳島会・内野設計が執筆する。
- ・「美術館・博物館巡り」は、宇塚副委員長が執筆する。
- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、静岡会・アトリエMアーキテクツが執筆する。
- ・編集後記は荻窪委員長が執筆する。

5. 12月号以降の特集等の確認・検討

ジェイクリエイトおよび事務局より、12～2月号の編集状況について、台割案に基づき説明がなされた。（資料4-1、4-2、4-3）

<12月号>

◇特集 能楽堂の現在

- ・「能楽堂の歴史と建築的特徴」について、近畿大学・奥富利幸教授のインタビューを掲載する。

- ・（公社）能楽協会の協力により、能楽の基礎知識を掲載する。
- ・能楽堂の改修設計について、設計者による解説を掲載する。
[予定] 山本能楽堂（安井建築設計事務所）、横浜能楽堂（松田平田設計）

・「わがまちの能楽堂」は、現在のところ5件の寄稿予定がある。

◇その他の主な記事等

- ・「令和6年度日事連建築賞作品紹介」は、日事連会長賞を受賞した広島会・kufuが執筆する。
- ・8月に東海北陸ブロック協議会青年委員会において開催された、上野会長、相原三重会会長、木下福井会会長による鼎談「ブロック協議会に求められる青年委員会とは？」の様子を、ジェイクリエイトがまとめる。

<1月号>

◇特集1 福井大会

- ・特集記事に先立ち、会長の年頭あいさつを掲載する。
- ・各イベント（基調講演、トークセッション、大会式典、青年話創会、女性交流会）の振り返り記事を掲載する。
- ・「日事連フォーラム 大会を終えて」は、福井会が執筆する。

◇特集2 今年の抱負（前半）

- ・令和6年同様、1・2月号の2ヶ月に亘って掲載する。

◇その他の主な記事等

- ・「令和6年度日事連建築賞作品紹介」は、優秀賞を受賞した大分会・下村正樹建築設計事務所らが執筆する。
- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、長崎会・久家設計事務所が執筆する。
- ・編集後記は、齊藤委員が執筆する。

<2月号>

◇特集1 旅する建築空間

- ・移動空間のデザインに建築家が関わった事例として、以下を紹介する。
[予定] 瑞風（浦一也氏）、ロマンスカー（岡部憲明氏）、ラビュウ（妹島和世氏）、旅するレストラン（隈研吾氏）、guntû（堀部安嗣氏）
- ・「建築家の視点で見る『移動のデザイン』」について、川西康之氏のインタビューを掲載する。
- ・「コラム ロマンスカーミュージアム」は鈴鹿副委員長が執筆する。
- ・特集に関連し「美術館・博物館巡り」は、京都鉄道博物館について荻窪委員長が執筆する。

◇特集2 今年の抱負（後半）

- ・1月号に続き、今年の抱負を掲載する。

◇その他の主な記事等

- ・編集後記は、鈴鹿副委員長が執筆する。

【意見】

- ・移動空間のデザインについて触れるとき、JR九州の車両等を手がけた水戸岡鋭治氏を外すことはできない。インタビューの中で少し触れる形でもかまわないので、どこかで言及してほしい。

6. 特集の提案について

荻窪委員長および宇塚副委員長より、特集の提案について説明がなされた。（資料5-1、5-2）

<各地の建築祭>

- ・現在の建築祭の元祖といえる建築ツアーの企画者として、東京アクセスポイント等にヒアリングを行い、その活動を紹介する。
- ・建築祭拡大の仕掛人として、倉方俊輔氏にインタビューしてはどうか。または佐野吉彦氏との対談を企画するのも一案である。
- ・全国の建築祭の紹介ページは、統一フォーマットを使用し、資料としても活用できるようにする。

【意見】

- ・建築作品を見学するツアーとは異なるが、東京で学生主体の「建築学縁祭」というイベントが行われている。
- ・渋谷では、世界的なクリエイターがデザインした公衆トイレを巡るトイレツアーが行われている。コラムで紹介しても面白いかもしれない。

<大正ロマンと昭和レトロ>

- ・来年は「昭和100年」の年であり、当時の建築が保存・移築の時期を迎える中、明治から昭和後期の建物を特集してはどうか。
- ・事例紹介としては、渋沢栄一郎、門司港駅、渡辺甚吉邸、土浦亀城邸、各地のスターハウス等が考えられる。

【意見】

- ・事例の数が膨大なため、切り口を絞らないと散漫になる恐れがある。
- ・「住宅」を切り口の候補とし、住宅遺産トラストにインタビューしてみても。
- ・他のメディアでもよく取り扱われるテーマなだけに、どう差別化するか考える必要がある。

検討の結果、「建築祭」は前回委員会での決定通り4月号掲載の方向で進め、「大正ロマンと昭和レトロ」は切り口を絞り込んだ上で再検討することとした。

7. デザインリニューアルについて

事務局より資料の説明がなされ、リニューアルに関する意見交換を行った。（資料6-1、6-2）

【意見】

- ・表紙ロゴの「日事連」をもう少し柔らかい印象のものに変更できないか。
- ・「日事連」はそれ自体が略称であるので、ローマ字などの他の文字表記にすると尚更意味が分からなくなってしまうと思う。
- ・発刊月を表す数字フォントはもう少し洗練されたものにしたい。
- ・表紙デザインの検討にあたっては、他誌のデザインを集め比較するのが良いのでは。
- ・表紙写真にはヒトも写っている方が、建築物がいきいきして見えて良いと思う。
- ・表紙デザインは会員によるコンペで決定しては、
⇒（ジェイクリエイト）中身がモノクロ印刷の雑誌であればコンペにより表紙を決めることも可能だが、中身がオールカラーの場合は、デザインの統一性のため表紙・中身を同一デザイナーが一体的に構成することが一般的。
- ・リニューアルの最終的な目標は「読んでもらえる会誌」にすること。そのために重要なのはコンテンツのリニューアルだが、「新しくなった」ことを伝える手段として表紙の刷新は効果的だと思う。
- ・連載一覧については、しばらく掲載していないものを休止したり、逆に現状不足している視点を補う新たな連載を開始したりする等の整理を行えばと思う。
- ・せっかくのリニューアルなので、目玉になるような企画がほしい。
- ・雑誌タイトルの変更には慎重な検討が必要

・タイトルを変更するとISSNの再取得が必要になるかもしれない。また、変更により図書館等での資料検索が困難になる可能性がある。

⇒（委員会後追記）タイトルが変わるとISSNは再取得が必要になる。参照：国立国会図書館HP

検討の結果、雑誌タイトルは現状維持とし、ジェイクリエイトが本日の検討内容を踏まえたデザイン案を複数用意し、次回委員会で提案することとした。

また、今回のリニューアル検討対象は、表紙・記事のデザインや連載内容等、『日事連』の構成要素全般であることを確認した。

8. その他

次回日程：12月9日（月）14：00～16：00

■主な行事予定

令和6年

- 11月20日 正副会長会
常任理事会
- 22日 省エネ・再エネ検討WG
- 27日 BIMと情報環境WG
- 12月 4日 日事政研役員会
通常理事会
- 9日 会誌編集専門委員会
- 10日 木造・木質化検討WG
- 13日 建築士事務所協会全国会長会議

令和6年10月末 会員・構成員異動報告等

1. 期間 令和6年10月1日～10月31日
 2. 会員在籍 正会員 47団体 構成員 14,197事務所
 賛助会員 11社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	△ 4	935	4,008	23.3%		277	29.6%
青森		161	872	18.5%		46	28.6%
岩手		273	885	30.8%		82	30.0%
宮城	△ 3	315	1,737	18.1%	+ 2	90	28.6%
秋田		135	926	14.6%		46	34.1%
山形		214	1,041	20.6%		61	28.5%
福島		231	1,383	16.7%		71	30.7%
茨城		421	1,758	23.9%		146	34.7%
栃木		164	1,253	13.1%	△ 1	76	46.3%
群馬		187	1,514	12.4%		90	48.1%
埼玉	△ 1	430	4,265	10.1%		135	31.4%
千葉	△ 1	332	3,161	10.5%		113	34.0%
東京	+ 5	1,640	14,009	11.7%	+ 1	645	39.3%
神奈川	△ 2	737	5,652	13.0%		245	33.2%
新潟	+ 1	296	2,109	14.0%		128	43.2%
長野	+ 1	376	1,952	19.3%	+ 1	103	27.4%
山梨		104	752	13.8%		13	12.5%
富山		293	1,092	26.8%		63	21.5%
石川	+ 1	330	1,219	27.1%	+ 1	70	21.2%
福井		193	894	21.6%		55	28.5%
岐阜		108	1,471	7.3%		34	31.5%
静岡	△ 1	369	2,870	12.9%		125	33.9%
愛知	+ 3	498	4,779	10.4%		145	29.1%
三重		181	1,117	16.2%		61	33.7%
滋賀		181	1,033	17.5%		42	23.2%
京都		355	2,117	16.8%		107	30.1%
大阪		794	6,086	13.0%	+ 3	251	31.6%
兵庫	+ 5	355	3,300	10.8%		99	27.9%
奈良		103	906	11.4%		26	25.2%
和歌山		105	705	14.9%		25	23.8%
鳥取		117	440	26.6%		53	45.3%
島根		116	598	19.4%		54	46.6%
岡山		372	1,372	27.1%		70	18.8%
広島		339	2,148	15.8%		150	44.2%
山口		111	956	11.6%		39	35.1%
徳島		105	761	13.8%		20	19.0%
香川		88	1,000	8.8%		20	22.7%
愛媛	+ 3	199	1,128	17.6%	+ 1	58	29.1%
高知	△ 1	136	616	22.1%		37	27.2%
福岡		468	3,434	13.6%	+ 1	183	39.1%
佐賀		175	532	32.9%		43	24.6%
長崎		226	753	30.0%		43	19.0%
熊本		223	1,335	16.7%	+ 1	94	42.2%
大分		152	767	19.8%		47	30.9%
宮崎		108	979	11.0%		46	42.6%
鹿児島		264	1,058	25.0%	+ 1	82	31.1%
沖縄		182	1,267	14.4%	△ 1	70	38.5%
計	+ 6	14,197	94,010	15.1%	+ 10	4,579	32.3%

※建築士事務所登録数(B)は令和6年4月1日時点の数字である。